

学校施設の長寿命化計画

令和3年3月
河内町教育委員会

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

①背景

平成29年3月河内町公共施設等総合管理計画により、河内町の総合的な施設管理が示された。学校施設においては統合によって新設の校舎が建設され、平成29年度から開校となっている。今後の学校施設管理を行っていくうえで、長期的な学校運営を見据え、計画的な修繕による予防保全的管理の実施、長寿命化に資する改善事業の実施に取り組むことが重要である。

②目的

今後の学校施設の適正な運営を図るため、予防保全的な維持管理、町の財政状況を踏まえた効果的な修繕などによるトータルコストの縮減、予算の平準化を図ることを目的として策定する。

③計画期間

令和 3 年度 ～ 令和 12 年度 (10 年ごとに見直し)

④計画期間（中間）

計画期間では5年目となる令和7年度を中間期間とする。

【⑤対象施設】

義務教育学校 1校

(2) 学校施設の目指すべき姿

平成29年度、平成30年度で町内の小中学校が統合され現在の河内町立かわち学園（義務教育学校）となりました。河内町の少子高齢化が進む中での学校統合は、子供たちの人間関係のつながりを保つことに大きな意味をもちます。その中で良好な教育を提供するには、学校施設の安全性、快適性の確保をはじめ、教職員への校務支援による負担軽減や社会情勢に合わせた教育の充実を図るためのICT環境整備などが求められ、また、それらを学習の場への提供につなげていくことが重要であると考えます。

(3) 学校施設の実態

①学校施設の運営状況・活用状況等の実態

1. 対象施設一覧

※令和2年5月1日時点

名称	住所	床面積 (㎡)	建築 年度	児童生徒数（人）		学級数（学級）	
				通常学級 在籍者数	特別 支援	通常 学級	特別 支援
義務 教育 学校	かわち学園	河内町長竿 5456-1	H28	391	29	17	6
				前期	前期	前期	前期
				248	24	11	4
				後期	後期	後期	後期
				143	5	6	2

2. 児童生徒数及び学級数の変化

※令和2年5月1日時点

区分 \ 年度	これまでの推移				将来推計		
	H19	H24	H29	R2	R4	R9	R14
前期児童数	596	435	316	272	242	213	187
後期生徒数	332	276	202	148	142	102	100
前期学級数	27	22	22	15	12	10	9
後期学級数	13	11	8	8	8	6	5
児童生徒数（合計）	928	711	518	420	384	315	287
学級数（合計）	40	33	30	23	20	16	14

※H29で全中学校統合、H30で統合された中学校と全小学校が統合となったことから、H28以前は前期を小学校と読み替え、後期を中学校と読み替える。

※H29からR2にかけて前期学級数が大きく減っているのは、学校統合によるもの。

3. 学校施設の配置状況



4. 施設関連経費の推移

単位：千円

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	3年平均
施設整備費（維持修繕）	0	86	676	254
委託費（設備等保守他）	1,184	2,167	3,260	2,204
光熱水費	4,625	10,953	10,206	8,595
施設整備費合計	5,809	13,206	14,142	11,052

1. 保有狀況・老朽化狀況

建物基本情報										構造躯体の健全性						劣化状況評価					備考	
通し 番号	施設名	建物名	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度			耐震安全性			長寿命化判定			屋根・ 外壁 ・ 屋上	内部 仕上	電気 設備	機械 設備		健全度 (100点 満点)
			学校 種別	建物 用途				西暦	和暦	築 年数	基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 N/㎡	試算上 の区分						
1	かわち学園	校舎	義務教育学校	校舎	RC	2		2016	H28	4	-	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	100	
2	かわち学園	体育館	義務教育学校	体育館	RC 一部S	2		2016	H28	4	-	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	100	
3	かわち学園	給食室	義務教育学校	給食室	S	1		2017	H29	3	-	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	100	

健全度の判定及び算出方法は、文部科学省が取りまとめた「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」を参考としている。

目視による評価
【屋根・屋上、外壁】

良好 ↑ 劣化	評価	基準
	A	概ね良好
	B	部分的に劣化
	C	広範囲に劣化
	D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

良好 ↑ 劣化	評価	基準
	A	20年未満
	B	20～40年
	C	40年以上
	D	経過年数に関わらず著しい劣化事情がある場合

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

部 位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ ^{a)}	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60.0

①部位の評価点×②部位のコスト配分÷60

部 位	評価	→	評価点	×	コスト配分	×	健全度点数
1 屋根・屋上	A	→	100	×	5.1	×	510
2 外壁	A	→	100	×	17.2	×	1,720
3 内部仕上げ	A	→	100	×	22.4	×	2,240
4 電気設備	A	→	100	×	8.0	×	800
5 機械設備	A	→	100	×	7.3	×	730
健全度合計点数							6,000
							÷ 60
							健全度 100

(4) 長寿命化のための維持管理計画

①計画期間内に実施する維持管理の内容

1. 施設の維持管理

今後の維持管理等について、設備などの耐用年数を考慮し、標準周期を踏まえて定期的な点検を行い、適切な時期に予防保全的な修繕を行うことで施設の安全性の確保と維持向上を図り、施設を長期的に活用する。点検・保守等の時期については以下の表によるものとする。

校舎・体育館・給食室点検・保守計画表

年度 区分	R3 2011	R4 2012	R5 2013	R6 2014	R7 2015	R8 2016	R9 2017	R10 2018	R11 2019	R12 2020
計画経過年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
施設点検					○					○
修繕計画見直し										○
建築基準法12条点検	○			○			○			○
空調設備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
消防設備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
給食室(厨房設備)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エレベーター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
電気工作物	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
受水槽設備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
バスケットゴール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
施設巡回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

②修繕計画

1. 修繕計画表

単位：千円

年度 区分	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
屋根(鋼板)再塗装										○
修繕費用										18,000

2. 修繕計画の調整、見直し

令和8年度は校舎等建設後10年目となることから、令和7年度に行う点検の結果を踏まえ、必要に応じて修繕計画の調整、見直しを行う。

3. 修繕の周期及び実施方針

校舎、体育館、給食室においては5年を経過していないことから、令和12年度の次期計画見直しの際に、修繕・改修周期等を示すものとする。但し、令和7年度の間時点、点検などによる結果の内容によっては、修繕・改修周期等を示すものとする。

長寿命化修繕計画に基づき、点検、修繕を実施することで、施設の安全性、利便性などの確保や維持向上を図り、長期的な活用を目指す。